

さぎの湯温泉
国民保養温泉地計画書

令和3年6月

環境省

目 次

1. 温泉地の概要	1
2. 計画の基本方針	2
3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方針	3
4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置 計画又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等	4
5. 温泉資源の保護に関する取組方針	5
6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	6
7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策	7
8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画	9
9. 災害防止対策に係る計画及び措置	11

〈添付資料〉

添付1. 国民保養温泉地位置図

添付2. 国民保養温泉地区域図

1. 温泉地の概要

安来市古川町にあるさぎの湯温泉は、中海・宍道湖・大山を包括する山陰観光文化圏の中央に位置する温泉地である。月山の麓を流れる清流・飯梨川のほとりにあり、山陰地方の著名な温泉地に比べて規模が小さく（浴用利用施設6施設）大規模な開発が進まなかったため、現在も懐かしさを感じられる農村の田園風景に囲まれている。

さぎの湯温泉は、神亀年間（724～729年）に湧き出した湯で、白鷺が脚の傷を癒したのが温泉の起こりと伝えられている。古くは戦国時代の尼子氏をはじめ、歴代藩主の御殿湯として栄えたことでも知られている。その後、度重なる飯梨川等の洪水によって泉脈を失ったが、明治43年に田辺六左衛門が手がけた排水工事にともない、泉源が再発見され、現在のさぎの湯温泉が形成された。

その後も、昭和34年8月の集中豪雨による水害等に苦しんできたが、上流部へのダム建設や河川工事によって、洪水被害を防ぐことができるようになった。平成7年には安来市が泉源を整備し、源泉かけ流しの豊富な湯量を確保することになった。

さぎの湯温泉の湯量は豊富で、無色透明のさらとした肌ざわりの湯が特徴になっている。温泉旅館では、それぞれ趣の異なる風呂で源泉かけ流しの温泉が楽しめるほか、健康増進施設「夢ランドしらさぎ」では、温泉風呂のほかに水着で入れるバーデスパ、ミニプール、トレーニングルームなどが整備されている。

近隣には、田園風景を囲む数百メートルの山々を借景にした日本庭園として、世界的な評価を得ている足立美術館があり、年間60万人を超える観光客が訪れ、外国人観光客の来訪も多い。また、安来節演芸館や安来節屋では、安来市固有の民謡・安来節やどじょうすくい踊りを気軽に楽しむことができる。さらに、3キロ圏内の距離には月山富田城跡及びかつての城下町広瀬があり、温泉を含めた一体的な観光地を形成している。



◆安来節演芸館&どじょう料理
安来節演芸館は、安来節の唄と踊りが生で楽しめるレストランとお土産も併設。様々なアレンジを施した特産のどじょうの郷土料理が味わえるお店が、周辺各所に点在しているのは、さすがに本場ならではの「安来節屋」はどじょうすくい踊りが体験できる道場で、楽しいグッズも豊富に。

安来 広瀬周辺

YASUGI

◆さぎの湯温泉 (5509)
白鷺が足の傷を癒したという伝説に由来するさぎの湯温泉。中世以降、歴代藩主の御殿湯として栄えました。ラジウムを含有し、湯量が豊富で、全施設とも掛け流しです。

◆月山富田城跡 (5257)
戦国時代、山陰・山陽11カ国を制覇した尼子一族の栄華を物語る月山富田城跡。一度は滅ぼされながらも「願わくば、我に七難八苦を与え給え」と三日月に復興を祈った名将、山中鹿介。太鼓壇には鹿介の像が建ち、桜の頃は花見で賑わいます。石垣が往時を偲ばせ、周辺には武将たちの墓の場所も点在します。

◆足立美術館 (5422)
5万坪の日本庭園と横山大観をはじめとする近代日本画、陶芸、書画など日本有数の美術品を鑑賞できる。新館では現代日本画の秀作を展示し人気が高い。庭園は米誌ランキングで「12年連続日本一」。

◆広瀬餅センター (5255)
伝統の広瀬餅の機械り見字やハカン子の藍染体験ができる広瀬餅センター。餅製品を主とした物産コーナーや喫茶室も館内に。すぐ隣には広瀬・月山・尼子の歴史を紹介する安来市歴史資料館が。

◆さぎの湯温泉旅館
ホテル・旅館名電話番号 (0854)
さぎの湯 荘 28-8211
竹 葉 28-8231
安 来 苑 28-8282

安来市観光協会 0854-23-7667 | さぎの湯観光協会 0854-28-6211

2. 計画の基本方針

さぎの湯温泉は、豊富な湯量や源泉かけ流しの魅力とともに、周辺地域の歴史ロマンあふれる資源や豊かな自然環境、田園風景のなかに懐かしさが感じられる落ち着いた佇まいの温泉地の風情が、来訪者の心をなごませ、多くのお客さまに支持されている。客層は中高齢者が中心で、観光シーズン等の混雑時を避けて、温泉地でゆっくりと過ごす個人客の利用が多い。

こうした温泉地の特性をふまえ、当温泉地は、「心をやすめる癒やしとやすらぎの温泉保養地」を基本コンセプトとして、来訪者がそれぞれの嗜好に応じて自然・歴史・文化・食・健康づくり等を楽しみつつ、心と体をゆったりと休めることができる滞在型の保養地としての温泉地を目指す。

また、隣接する足立美術館には年間を通じて多数の来訪者があるが、そのほとんどが広域観光の途上での来訪であるため、これらの来訪者に対して当温泉地の存在及び魅力を周知し、さぎの湯温泉での保養を目的とした当地への再訪問を促す取組を推進していく。



さぎの湯温泉遠景



温泉街入口アーチ



さぎの湯温泉街



さぎの湯荘
(旅館)



安来苑
(旅館)



竹葉
(旅館)



夢ランドしらさぎ
(健康増進施設)



足立美術館



安来節演芸館



3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方針

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

さぎの湯温泉は、^{きよみずがっさん}清水月山県立自然公園内にあり、^{だいせん}名峰大山とこれに連なる中国山脈を背景に、豊富な水量を誇る1級河川・飯梨川のほとりに位置している。

さぎの湯温泉周辺は、山並みや水田等で構成される穏やかな田園風景が広がり、高層建築や電子看板等もないことから、温泉地の情緒ある風景や景観が保たれている。

清水月山県立自然公園は、数多くの史跡とそれを取り囲む自然環境とが一体となった自然公園であり、さぎの湯温泉地区は、天台宗の名刹清水寺を中心とする清水地区と、国史跡富田城跡を中心とする月山地区とを結ぶ中間にある。

月山富田城は、16世紀に最盛期を迎えた尼子氏の居城であり、さぎの湯温泉は、歴代藩主の御殿湯として栄えたことでも知られている。山中鹿介の物語で知られ、NHK大河ドラマの舞台となったほか、随所に残る石垣や石畳の石道が当時の面影を伝えている。城下町広瀬に伝承される広瀬緋、広瀬和紙、窯元、たたら操業の流れをくむ鍛冶工芸といった伝統工芸も含めて、歴史ロマンあふれる資源が豊富である。

清水寺は、スギや常緑広葉樹の天然林に囲まれた清水山の中腹に位置し、境内には重要文化財の根本堂を中心とした大伽藍や、県下唯一の三重塔が残っており、深山幽谷的な趣をもつ。眺望もよく、四季折々の景色を楽しむことができる。

(2) 取組の現状

さぎの湯温泉地区は、清水月山県立自然公園内にあり、島根県立自然公園条例に基づき、公園内の自然環境が保たれている。

安来市では、民謡・安来節や価値ある遺跡、史跡、まつり、社寺、庭園をはじめ、優れた有形・無形の文化財を維持・保存しつつ、滞在・体験型観光（安来節、染物、紙漉き、陶芸、農業など）や美しい田園景観、雄大な眺望を活かした散策・サイクリングコースの整備等、自然と農村文化にふれるグリーンツーリズムを推進している。

さぎの湯温泉地区では、①さぎの湯観光協会、②さぎの湯根っこの会の団体が存在する。とくに、②については地域住民、旅館経営者等で組織されている団体であり、「田園の中に湯けむり情緒あふれる温泉と歴史ロマンを体感できる街づくり」を目標に掲げ、美化活動や四季折々に楽しめる花壇の設置など、魅力ある温泉地づくりに取り組んでいる。

(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉においては、現在の温泉地の情緒ある風景や景観を大切にし、自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等を図るため、県・市・地元関係者と調整の上、現状の取組を継続する。

また、滞在型の健康保養地としての温泉地を目指す上で、これらの貴重な資源の魅力や楽しみ方、味わい方を来訪者や地域内外へ伝え、温泉とともに地域をまるごと楽しみ、親しんでもらう取り組みを通じて、維持・保全につなげていく。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

さぎの湯温泉では、現在、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師を配置していない。また、入浴方法の指導を行う人材もいない。

今後、(2)に記載する医師及び人材の配置・育成に取り組む。

(2) 配置計画又は育成方針等

さぎの湯温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師及び入浴方法等の指導を行う人材を配置することにしており、その計画及び育成方針は、以下のとおりである。

①医師

氏名	専門分野	活動内容	配置予定年度
安来市立病院に勤務する医師	内科、リハビリテーション科	<ul style="list-style-type: none"> ・安来市立病院において、随時、温泉利用に関する相談対応を行う。 ・各温泉施設の経営者、職員に対し、必要に応じて医学的な観点から温泉利用に関する助言を行う。 	令和3年度

②入浴方法等の指導を行う人材

氏名	専門分野	配置予定年度	育成方針
温泉入浴指導員	<ul style="list-style-type: none"> ・各温泉施設において、健康増進及び疾病予防のための温泉利用を安全かつ適切に実施できるよう指導する。 ・指導にあたっては、必要に応じて安来市立病院の医師に相談し、その助言を指導に反映する。 	令和3年度	令和3年度に2人、最終的に全ての施設に各1名以上の配置を目指す。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

さぎの湯温泉は、以前は複数の泉源から集めた温泉を利用していたが、低温かつ湯量が不安定であった。また、地下の土質についても砂地であるため泉源が埋まる危険性があった。このため、平成7年に新泉源を掘削（深度1,000m）し、高温かつ安定的な湯量確保が可能となった。

泉質は、低張性弱アルカリ性高温泉の療養泉であり、温泉利用者一人あたり1.37リットル/分以上の豊富な湧出量がある。

源泉	温度(℃)	湧出量(ℓ/min)	泉質	湧出状況	所有者	利用施設
さぎの湯温泉	53.8	1,100	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩温泉	動力揚湯	安来市	旅館：3施設 健康増進施設：1施設 介護予防施設：1施設 介護施設：1施設

※温度、泉質は「温泉分析書（平成27年8月）」による。湧出量は令和2年の調査結果による。

(2) 取組の現状

さぎの湯温泉における源泉について、現在講じているその保護に関する取組の状況は、以下のとおりである。

源泉	取組	実施主体	実施年度
さぎの湯温泉	年2回：送湯ポンプ及び配湯設備の定期点検 （水圧・温度等を計測し記録している） 年1回：泉源ポンプ交換	安来市	H25～

(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉泉源においては、現在のところ温泉湧出量は豊富であるが、これを将来にわたって維持するため、上記(2)の取組を継続して行う。また、定期的な電量把握（＝揚湯ポンプ）を行い揚湯量に異常がないか等を確認していく。

泉源周辺部においては、温泉利用者及び地元住民とともに、温泉地が一体となって温泉資源の保護を推進していく。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

さぎの湯温泉において温泉の利用にあたって使用している設備及び温泉利用の状況は、以下のとおりである。

源泉	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
さぎの湯温泉	1	貯湯槽・引湯管	6

(2) 取組の現状

さぎの湯温泉において温泉の利用にあたって使用している設備について、現在講じている衛生面での取組の状況は、以下のとおりである。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	・地下水等が混入しないように遮水対策を施工。	安来市
引湯管	自主的	・バルブ、ドレン等の点検を必要に応じて実施。	安来市
貯湯槽 送湯ポンプ	自主的	・1年に1回、設備を定期点検。 ・おおむね5年毎に洗浄工事を実施。	安来市
送湯管	自主的	・おおむね10年毎に洗浄工事を実施。	安来市
浴槽	県条例	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ流しで新鮮な温泉水を随時入れている。 ・浴槽水は、毎日換水して浴槽を清掃している。 ・浴槽を1週間に1回、清掃。 ・清掃時には塩素系薬剤を使用。 ・水質検査を年1回実施。 	旅館 (3施設) 介護施設 (1施設)
		【循環ろ過装置設置施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・各循環式浴槽に塩素系薬剤による消毒液を常時注入し、濃度管理を適正に行う。 ・全浴槽水の週1回の清掃、換水。 ・かけ流し浴槽水の毎日清掃・換水。 ・年2回の全浴槽水の水質検査を実施 	健康増進施設 (1施設) 介護予防施設 (1施設)
周辺設備	自主的	源泉周辺の草刈を年2回実施。	さぎの湯観光協会

(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、今後も温泉を衛生的に良好に保つため、島根県の指導のもと、上記(2)の取組を継続して行う。また、各施設においては、温泉に関する衛生面の啓蒙に務めるため、従業員向け研修会の開催、他団体が実施する講習会への参加等、取組の強化を図っていく。

とくに、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理については、4.(2)①の機関及び島根県と連携を取りながら推進していくこととする。

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

さぎの湯温泉は、神亀年間（724～729年）に湧き出したと伝えられており、古くは戦国時代の尼子氏をはじめ歴代藩主の御殿湯として栄え、その後、飯梨川の洪水等により一時泉脈を失ったが、明治43年の泉源再発見により現在のさぎの湯温泉が形成され、以来、観光客の保養の場や湯治場として全国各地より来訪される温泉地となった。

その後、平成7年には安来市により泉源が整備され、平成9年には健康増進施設「夢ランドしらさぎ」がオープンしたことにより、観光客に加えて地元や近隣住民の保養の場としても多くの人に利用されている。

しかし、近年の観光入込客数は、観光ニーズの多様化等により減少傾向が続いている。

近年のさぎの湯温泉における温泉利用の状況は、以下のとおりである。

① 過去3年間の温泉の利用者数 (単位：人)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
宿泊	19,413	18,699	17,654
日帰り	279,830	268,932	257,365
合計	299,243	287,631	275,019

② 直近1年間（令和元年度）の温泉の利用者数 (単位：人)

温泉地	区分	施設数	総定員	利用者数							
				4月	5月	6月	7月	8月			
さぎの湯温泉	宿泊	4	203	1,609	1,845	1,342	1,350	2,012			
	日帰り	2	-	22,529	22,072	20,874	21,304	23,993			
	合計	6	203	24,138	22,072	20,874	21,304	23,993			
				利用者数							
				9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
				1,477	1,802	2,085	1,310	977	885	960	17,654
				21,167	19,697	21,907	22,586	22,158	18,970	20,108	257,365
				21,167	19,697	21,907	22,586	22,158	18,970	20,108	275,019

(2) 取組の現状

さぎの湯温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

取 組	実施主体
さぎの湯温泉の情緒ある風景づくり ・温泉地のもつ情緒ある風景を守るべく、温泉地の美化活動として毎年実施されている地域の清掃活動に参加。	さぎの湯温泉 根っこの会
さぎの湯温泉産直市「田舎のお福分け」 ・年1回、温泉地内で地元の特産品、工芸品、お菓子等を直売。試食・販売のほか仮設足湯、職人によるミニ体験等のイベント、温泉無料券の特別配布等を実施。	さぎの湯温泉 根っこの会
さぎの湯スイーツの開発・販売 ・地元農産物を使ったスイーツとして、地元のぶどう園と連携してオリジナル商品「ぶどうアイス」を開発し、「田舎のお福分け」にて販売。	さぎの湯温泉 根っこの会
白鷺治癒伝説にちなんだコスメグッズの開発・販売 ・温泉と美肌のイメージを活かしたコスメグッズとして、和紙に鉱石を漉き込んだ美装紙の温泉地オリジナルパッケージを開発し、各施設で販売。	さぎの湯温泉 根っこの会
自然・歴史を感じる散策コース・サイクリングコースの設定 ・さぎの湯温泉周辺の美しい田園風景や雄大な眺望、また戦国時代の歴史ロマンを感じることでできる散策コースやサイクリングコースを設定し、各施設にて案内。	安来市観光協会
さぎの湯温泉レンタサイクル ・さぎの湯温泉地内の旅館等において自転車の貸し出しを実施。旅館でレンタサイクルを組み込んだ宿泊プランを提供。	温泉旅館ほか
各種体験プログラムの提供 ・周辺施設と連携して、どじょう掬い踊り体験、鍛冶屋体験、陶芸体験、藍染め体験など各種体験プログラムを提供。	さぎの湯温泉 根っこの会
「安来お坊さんカフェ」 ・新たな観光素材として市内の若手僧侶の協力を得て企画。フェイスブックで参加者を募り、座禅のほか悩み相談や仏教・寺院への質問に答えるカフェを実施。参加層は県内外の30、40代の女性が中心。	さぎの湯温泉 根っこの会
来訪者の嗜好を意識した健康志向の食の提供 ・来訪者の健康に対する嗜好等に応じ、健康志向の料理（精進料理、薬膳料理、マクロビオティック料理、ヴィーガン料理など）を温泉旅館の一部において提供。	各温泉旅館
中長期滞在プランの提供 ・湯治的滞在（連泊）を希望される来訪者の希望に応じ、温泉利用と各種体験プログラムを組み合わせた中長期滞在プランを提供。	さぎの湯温泉 根っこの会 各温泉旅館



さぎの湯温泉産直市
「田舎のお福分け」



オリジナルコスメグッズ



どじょう掬い踊り体験



安来お坊さんカフェ

(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、さらに温泉の公共的利用の増進を図るため、温泉地の魅力のひとつでもある豊富な自然環境、歴史、文化等の維持・保全に努めながら、滞在型の健康保養地としての温泉地を目指し、(2)の取組を継続するとともに、隣接する足立美術館への来訪者をはじめとする広域観光での安来市への来訪者に対し、当温泉地の存在及び魅力を周知する活動を行っていく。

8. 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

さぎの湯温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設
さぎの湯温泉	公有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・道路（主要地方道安来木次線、市道板橋線、市道矢田新宮線） ・遊歩道 ・さぎの湯公園 ・公民館
	公有施設 (指定管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進施設（1施設） ・介護予防施設（1施設）
	私有施設	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館（3施設） ・介護施設（1施設）

(2) 取組の現状

さぎの湯温泉において、高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取り組みの状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
さぎの湯温泉	公有施設	道路	安全対策として歩道部分のカラー舗装を実施	安来市
		建築物	【健康増進施設・介護予防施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・館内用車いすの配置 ・スタッフによる移動の際の介助 ・浴場への手すりの設置 ・身障者向けトイレ、多目的トイレの設置 ・トイレの便座を洋式便座とする ・食事提供時にテーブル・椅子等の選択が可能 	安来市
		その他	【健康増進施設・介護予防施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉保健手帳持参者への割引の実施 	安来市
	私有施設	建築物	【旅館（一部の旅館のみのものを含む）】 <ul style="list-style-type: none"> ・館内用車いすの配置 ・スタッフによる移動の際の介助 ・浴場への手すりの設置 ・身障者向けトイレ、多目的トイレの設置 ・トイレの便座を洋式便座とする ・食事提供時にテーブル・椅子等の選択が可能 ・部屋割りに際し、希望に応じて1階を優先 ・案内表記に外国語表記を併記 ・Wi-Fi 設備設置 ・ベジタリアン食、ハラール認証食への対応 【介護施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・館内のバリアフリー化 ・車いす使用可能 	施設所有者

(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、さらに高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりを推進するため、(2)の取組を継続するとともに、以下の取組を進める。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
さぎの湯温泉	公有施設	道路	ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、必要な整備を進めていく。 サインについては「やすぎ観光案内サインガイドライン」に基づき整備していく。	安来市
		建築物	【健康増進施設・介護予防施設】 ・Wi-Fi 設備設置 ・案内表記に外国語表記を併記	安来市
	私有施設	建築物	【旅館】 ・館内の段差解消及び館内への手すりなどの補助器具の設置の拡充 ・案内表記の外国語表記の拡充 ・スタッフの外国語学力のアップ	施設所有者

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

さぎの湯温泉は、1級河川である斐伊川水系飯梨川の傍にある。飯梨川は以前より氾濫を繰り返してきたが、昭和34年8月の集中豪雨による水害を契機に、島根県では飯梨川の洪水の調整に加え、工業用水及び水道用水の供給、発電所建設による電力供給を目的として飯梨川の上流にダムを建設し、支流の山佐川にもダムを建設した。これにより飯梨川沿川全域にわたり洪水被害を防ぐことができるようになった。

(2) 計画及び措置の現状

さぎの湯温泉において、現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

温泉地	計画又は措置	計画又は措置の概要
さぎの湯温泉	斐伊川水系中海支川域河川整備計画	河川法に基づき島根県が策定。 ○飯梨川 ・概ね80年に1回程度の確率で発生する降雨による洪水に対して、家屋及び農地の浸水被害を防ぐため、河口から安来市上坂田町まで、安来市広瀬町布部地先において河道改修を行う。
	島根県水防計画	水防法に基づき島根県が策定。斐伊川水系飯梨川浸水想定区域を設定。(平成18年島根県告示第554号) ○飯梨川浸水想定区域 ・安来市広瀬町から安来市赤江町までの左岸 ※旅館3施設が該当
	安来市水防計画	水防法に基づき島根県水防計画をふまえ安来市が策定。水防業務の調整・円滑な実施のため必要の事項を規定。 ○重点水防区域 ・斐伊川水系 飯梨川 安来市広瀬町布部(布部ダム)～安来市東赤江町(河口) 左岸 25,000m ※旅館3施設が該当 (健康増進施設、介護予防施設が指定緊急避難所、指定避難所に指定)
	安来市地域防災計画	災害対策基本法に基づき安来市が策定。各種災害に備え、災害種別毎に予防、応急対策、復旧・復興に関する諸施策の基本事項を規定。 (洪水、土砂災害、火災、地震災害の際の避難先として、健康増進施設、介護予防施設が指定緊急避難所、指定避難所に指定)
	原子力災害に備えた安来市広域避難計画	安来市地域防災計画(原子力災害対策編)に基づき安来市が策定。国の指針と島根県広域避難計画との整合を図り、広域避難体制を整備。 ○広域避難計画対象地域:UPZ(島根原子力発電所から30km圏以内) ・飯梨地区 ※さぎの湯温泉全体がUPZに該当 (原子力災害発生時には岡山県美咲町への広域避難を行う)

さぎの湯温泉	どじょっこWi-Fi 接続サービス (災害時SSID)	公衆 Wi-Fi サービスである「どじょっこ Wi-Fi」において、災害時用の SSID を配備。災害時用 SSID は通常は電波を停止しているが、災害が発生し、アクセスポイント設置箇所が避難所に指定されると災害時用の電波を出力し、接続制限なしで利用可能となる。 ※避難所に指定されている健康増進施設にアクセスポイント設置
	行政告知端末	行政告知端末を各事業所が設置し、行政から提供される各種防災情報を受信し、利用者へ情報を提供。
	自主防災活動	各施設において、災害発生を想定した避難訓練等を実施。

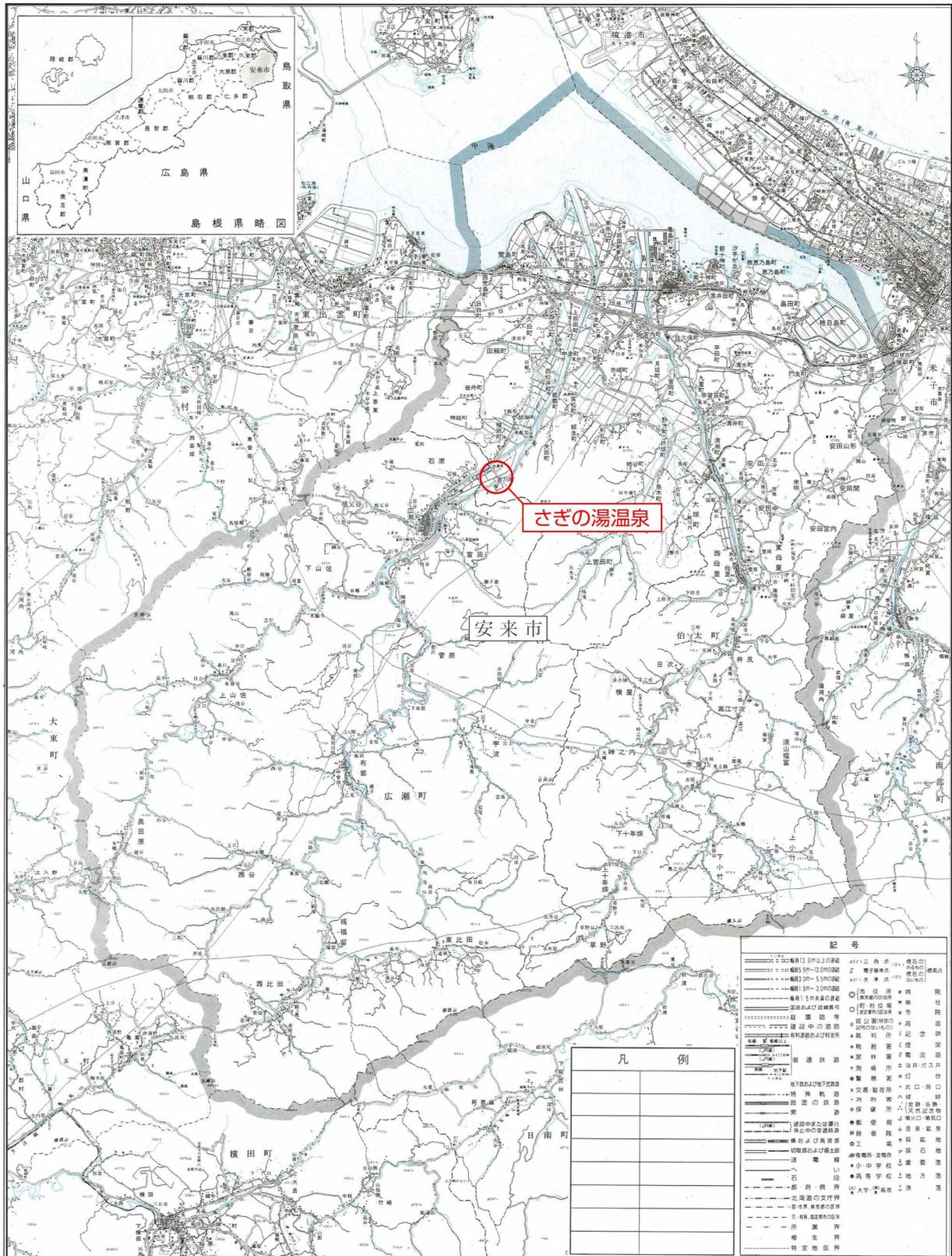
(3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉地域は、隣接する足立美術館に多数の来訪者があることから、災害時に地域内に多数の観光客が存在する。このため迅速な情報収集と行動がより一層不可欠であり、各種計画に新たな項目を設けるよう働きかけていく。

また、さぎの湯温泉において、災害の防止を図るため、(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

温泉地	取組	実施主体
さぎの湯温泉	各施設において、市民防災マップや災害時の避難場所の位置、災害情報を受信できる「どじょっこWi-Fi」の災害時SSIDの情報等を館内に掲示するなどして、各種防災情報を施設利用者に提供する。	各施設所有者
	各施設での防災訓練のほか、地域の防災訓練との同時実施や、各施設の合同避難訓練を実施する。	さぎの湯温泉 根っこの会

添付1. 国民保養温泉地位置図



2000m 0 2000 4000 6000

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1
 地形図を複製したものである。(承認番号 平16 中環 第92号)」

添付2. 国民保養温泉地域図

